

第1学年 図画工作科学習指導案

第1学年 25名
指導者 天羽 千寿
授業場 1年教室

1 題材名 わくわく どろどろえのぐ <A表現(2) 絵に表す・B鑑賞>

2 題材設定の理由

本題材は、液体粘土に共同絵の具を混ぜ合わせて、「どろどろ絵の具」という描画材料をつくり、その心地よい感触を味わいながら、指や手のひらを使って、思い付いたものを直接かいたりぬったりして楽しむ活動である。手を使っての活動は、幼児期に体験した砂場での泥遊びを想起させるもので、1年生の児童にとって、抵抗の少ない活動である。かくことの楽しさや快さを味わいながら、喜んで活動することができると思われる。また、指先でかいたり、とんとん押ししたり、手のひら全体でぬったり、爪でひっかいたりするなどいろいろな表し方でかくことで、表現する面白さも味わうことができる。また、かいたものから見えてきたものや思い付いたこと、面白そうなことをかき足すことで、想像を広げて楽しむことができる。さらに、自分がかいた作品を互いに紹介し合い、友達とつながることで、それぞれの表現の違いやよさに気づき、その面白さを味わうことも期待できる。

本学級の児童は、明るく活発で、学校での様々な活動を喜んで行っている。絵をかいたり、粘土でもものをつくったりすることが好きな児童も多く、図画工作科の時間を楽しみにしている。今までに行った絵に表す活動では、すぐに思い付いてかき始める児童が多い中、何をかいていいのか思い付かず困っている児童もいた。しかし、近くの友達がかいているのを見たり真似したりするうちに、自分がかきたいものが決まり、作品を完成させることができた。また、『クルクルぐるり』の題材では、クルクルかいたものから想像を広げ、思い付いたものを楽しんでかき足す児童が多く見られた。しかし、筆触や絵の具の色の違いに気づき、それを生かして表し方を工夫する児童は少なかった。そこで、本題材に取り組み、友達とつながりながら活動する中で、どろどろ絵の具の色の違いや指の跡などにも目を向け、それらを生かした表現を工夫できるようになってほしい。

指導に当たっては、初めて使うどろどろ絵の具との出会いを大切にしたい。そこで、事前にアートタイムの時間を使って、すぐに何かにかくことを目的とするのではなく、何度も混ぜたり手にぬったり、匂いをかいだりするなど、どろどろ絵の具に親しむ活動を取り入れたい。また、かくことの楽しさや心地よさを感じさせながら、工夫して表せるようにさせたい。その際、発想が広がるように参考例などを見せながら、指先でかいたり、爪でひっかいたりするなどの表現方法を伝えることで、自分の思いに合った作品ができるよう支援していきたい。さらに、友達の作品を見て、気に入ったものや取り入れてみたいものがあったら自分の作品に生かすことができるよう助言していきたい。作品ができた後には、自分の思いにあった題名を付け、それをクイズにして紹介することで、自分の思いを友達と伝え合い、お互いの作品のよさに気付かせたい。これらの活動を通して、児童自ら材料にかかわり、手や体の感覚を十分に働かせ、表現する心地よさや楽しさを味わわせたいと考え、この題材を設定した。

3 題材の目標

- どろどろ絵の具を指や手のひらにつけて、かいたりぬったりする快さを味わいながら、かく活動を楽しむことができる。(造形への関心・意欲・態度)
- 指や手のひらで思いのままにかいたりぬったりすることから想像を広げて、表したいものを思い付くことができる。(発想や構想の能力)
- 指や手のひらでできたどろどろ絵の具の跡や色の違いなどを生かした表現を工夫することができる。(創造的な技能)
- 自分や友達の作品のよさや面白さに気付くことができる。(鑑賞の能力)

4 題材の評価規準

造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
どろどろ絵の具を指や手のひらにつけて、かいたりぬったりする快さを味わいながら、かく活動を楽しもうとしている。	指や手のひらで思いのままにかいたりぬったりすることから想像を広げて、表したいものを思い付いている。	指や手のひらでできたどろどろ絵の具の跡や色の違いなどを生かした表現を工夫している。	自分や友達作品のよさや面白さに気付いている。

5 指導と評価の計画（全3時間 本時2/3）

時 間	学習活動	評価規準・評価方法			
		造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
第一 次 （二時間）	○ 液体粘土に絵の具を混ぜ合わせ、指や手で画用紙にかいたりぬったりする心地よさや面白さを楽しむ。	どろどろ絵の具を指や手のひらにつけて、かいたりぬったりする快さを味わいながら、かく活動を楽しもうとしている。 （観察・発言）	指や手のひらで思いのままにかいたりぬったりすることから想像を広げて、表したいものを思い付いている。 （観察・対話・発言・作品）		
第二 次 （一時間）	○ 指や手のひらを使って、どろどろ絵の具でいろいろな表し方をする。 （本時2/3）			指や手のひらでできたどろどろ絵の具の跡や色の違いなどを生かした表現を工夫している。 （観察・対話・発言・作品）	
第三 次 （一時間）	○ 自分や友達の表現のよさを味わう。				自分や友達の作品のよさや面白さに気付いている。 （観察・発表・振り返りカード）

6 本時

(1) 目標

どろどろ絵の具を使って、指や手のひらでできた絵の具の跡や色の違いなどを生かした表現を工夫することができる。

(2) 展開

時間	学習活動	指導上の留意事項	学習活動における 具体の評価規準	評価 方法
5分	1 本時の学習のめあてを確認し、活動への意欲をもつ。	○ 前時までの学習を振り返り、本時の活動のめあてをもたせる。		
35分	2 どろどろ絵の具を指や手のひらを使って、いろいろな表し方でかく。	○ 指先でかいたり、とんとん押ししたり、手のひら全体でぬったり、爪でひっかいたりするなど、いろいろな表し方で、かくことができるように技法を紹介する。 ○ 自分がかいた絵から何が見えてくるか、想像を広げ思い付いたものや面白そうなものをかき足してもよいことを知らせる。 ○ 表現が広がらない児童には、友達の表現で気に入ったものや取り入れてみたいものがあったら、取り入れてもよいことを知らせ、自分の作品づくりに生かすよう助言する。 ○ 工夫された表現や想像を広げた表し方をしている作品を紹介し、表し方の参考にできるようにする。	指や手のひらでできたどろどろ絵の具の跡や色の違いなどを生かした表現を工夫している。 【創造的な技能】	観察 対話 発言 作品
5分	3 本時の学習を振り返り、次時への意欲をもつ。	○ 「面白いな」「きれいだな」と思った表現を紹介させ、学習を振り返らせるとともに次時では、みんなで作成発表会をすることを知らせ、意欲を高める。		

(3) 評価及び指導の例

「十分満足できる」と判断できる状況	・ どろどろ絵の具を指や手のひらを使って、いろいろな表し方で思いのままにかき、そのかいたものから豊かに想像を広げ、自分の表したいものを進んで、楽しみながらかくことができる。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導	・ 表現が広がらない児童には、対話により思いを聞き助言したり、友達の表現を紹介したりすることで、自分の作品づくりに生かすことができるよう促す。